

輝け 若人

私は、絵を描くことやデザインが好きで「ずっと残る何かをつくりたい」という本当に漠然とした思いで建築関係の進路を考えていきました。高校では、大学受験に向けた3年間を送ったので建築の知識はゼロの「ただ興味・関心だけを持った状態」で建築デザイン学科に入りました。

感じる場面が多くつたです。ですが、何も知識がないからこそ知識がある人たちから少しでも多くのことを吸収

掛けました。そのおかげで共に苦労を乗り越えられる仲間ができ、徐々に彼らとの差を感じる機会も少くなり

心熱意を持ち続ける」ということです。知識ゼロの状態から始まったく学生生活が、現在充実した日々を送っています。



第一工科大学
建築デザイン学科 3年

坂元 翔紀さん

挑戦し続ける

工業系の大学なので、もちろん工業高校出身の学生がたくさんいて、初めのころは差を

しようと考へ、教授は私が、大学生活を通して一番大切だと感じているのが「興味や関

ました。

続けているからであると断言できます。私と同じように普通科から建築系への進学を考えている、もしくは進学した学生の希望に私自身がなればいいなど

いう思いを持ちつつ、日々の設計課題や活動に励んでいます。建築と一言で言つても、本当に多くのことが関わっており、私がどの分野が向いているのかはまだ漠然とした状態ですが、どの分野に進んだとしても、きっとと今大切にしている信念を忘れなければ、努力する自分自身を好きになれる信じています。

このまま漠然とした状態ですが、どの分野に進んだとしても、きっとと今大切にしている信念を忘れなければ、努力する自分自身を好きになれる信じています。